令和５年度　小林市立三松小学校　学校関係者評価書

学校経営ビジョン	学校経営ビジョンキーワード：『Have to』から『Want to』へ、さあ歩こう！三松っ子！　目指せ「あいさつ官」 夢の実現に向けて、「対話」を軸に、「協同・自立」し、仲間とともに高め合う児童の育成。成長した人材が地域の核として活躍する	4段階評価（4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する）

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等(〇成果・●課題・☆改善策)	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	重点目標：基礎・基本の確実な定着及び思考力・判断力・表現力等の向上 ■手段 １　基礎・基本の定着 ２　読解力・思考力・表現力等の育成 ３　授業力の向上	〇　週３回程度１０分間実施している「ぐんぐんタイム」を活用し、学力向上を図ることができた。 ☆　本年度、給食時間を少しでも早めるために「ぐんぐんタイム」を給食後に設定した。時数カウントしない水曜の１校時（フッ化物洗口や読み聞かせ、集会等）について、校時程の変更を検討している。 〇　学力調査関係は、すべて予定どおり実施することができた。 ●　全国学習状況調査（６年）の結果は、県の平均なみ（若干下回る）だが昨年度より向上した。また、学習意欲が高いことが分かった。 ●　県学習状況調査（４年）の結果は、県平均を下回っていた。学力の個人差が大きく、より一層の支援が必要であることが分かった。 〇　三松メソッドを意識した授業実践が進められた。 〇　職員による読書活動の積極的な推進について、昨年度より0.2ポイント上昇した。 〇　１月末現在の図書貸出数が４７２１冊で、昨年度より５２６冊増えた。図書担当や図書委員会の取組、学級での啓発の成果が表れていると思われる。 ●　家庭での読書に関する保護者評価が昨年度より0.3ポイント下がった。家庭への啓発も行っていきたい。 〇　朝の時間を使った保護者による読み聞かせを計画的に実施していただいた。12月にはクリスマス読書会も実施していただき好評であった。 〇　表現力向上のために行っている新聞作文欄等への投稿に関する職員による評価が昨年度より０.２ポイント上昇した。１月末現在４名の作文が掲載された。新聞に限らず県文集ともだちなどにも積極的に応募した。 〇　年間３回のひなた授業づくり訪問を実施し、小林市教育委員会指導主事による授業に関するフィードバックを生かした授業改善を行うことができた。授業づくり訪問は個人で受けたが、授業参観等を通して、経験年数が少ない先生を中心に、学びを広げることができた。 〇　高学年における一部教科担任制については、理科、音楽、体育、外国語で実施することができた。交換授業はできなかった。 ☆　次年度は今年度の課題を整理し、さらに児童への教育的効果が上がる方法を模索していく。	３．０	３．４	◇　「三松メソッド」の共通実践が学力調査の結果に良い影響を与えていると感じました。読書活動の推進や新聞への投稿など、主体的な学びに関わる取組にも期待しています。 ◇　「こうなりたい」という思いが学ぶ意欲にも繋がります。社会体験や社会人による講話に加え、教師や保護者による仕事の話、子どもたちの活躍や作品の紹介と賞賛など、自分に自信をもち将来を考えるきっかけになる機会をできるだけ設けてほしいと思います。 ◇　これまで多くの授業や活動を見せていただき、先生方が様々な工夫をして指導されているのがよく分かります。タブレット端末を扱う子どもたちの姿も見慣れた風景になりました。ICT機器の活用には難しさも多々ありますが、授業の深みが増し、授業の特色も生まれると思います。 ◇　学びによって、それぞれに個人差はあっても、できることが増えていきます。できることを増やし、成長して自立し、一人前の社会人となるのです。学力調査の結果が気になると思いますが、あんまり神経質にならず、好きになってワクワクしながら学ぶことを大切にしていけば、大人になっても仕事についても多くのことを意欲的に学んでいく大人になるのではないでしょうか。大切なことは、今、どれだけの知識があるかではなく、問題意識をもち、学ぶ意欲を将来も持ち続ける子どもをどう育てるかです。 ◇　校時の時間配分を常に模索していただけていることに感謝します。 ◇　ぐんぐんタイムの活用は１５分間と短い時間ではあるが、子どもたちの集中力を考えると、この１５分間は大変貴重な時間でもある。継続していっていただきたい。 ◇　読書活動はなかなか時間を費やすことが難しい課題だと思います。図書の貸出数が増えたことは図書関係の方のお陰です。 ◇　様々な教育内容の増加と時間の制約の中で、児童がよりよく活動できる工夫を先生方が努力されている姿に頭が下がります。学校ぐるみのワンチーム、来年度もタッグを組んで更なる工夫、向上を楽しみにしています。
徳育	重点目標：自他の存在、きまり、礼儀の尊重及び豊かな心の育成 ■手段 １　基本的な生活習慣の定着 ２　豊かな心の育成 ３　いじめや不登校の早期発見・　早期対応	〇　挨拶・返事に関する意識は、職員・保護者ともに、上昇傾向にある。全体的には、気持ちの良いあいさつができる児童が多い。 ☆　挨拶について、継続指導していく。 ●　ボランティアに関する職員評価は前期・後期で伸びが見られず、職員も一緒に実践する等工夫が必要である。勤務時間外に取り組む職員もいる。 〇　日々の観察に加え、毎月の悩みアンケートやＱＵ調査の実施により児童理解に努めた。悩みアンケートを受けて、毎月コスモス委員会（いじめ不登校対策委員会）を開催し、全職員で対応について協議し、共通理解を図った。 〇　不登校児童や不登校傾向児童への対応については、保護者や関係機関との連携を密に行う等、解決に向けた取組を進めてきた。ＳＳＷ（スクール・ソーシャル・ワーカー）も活用し、改善が見られた児童や、現在対応している児童がいる。 〇　ＳＮＳに関する指導について、毎月県教育委員会から届くリーフレットを活用した指導を行うとともに、非行防止教室や学校保健委員会を活用し、児童や保護者対象とした外部講師を招へいした学びの機会を設定し、意識の向上に努めた。	３．１	３．４	◇　みまつ会議は三松小独特の取組で、定期的に実施していることが素晴らしいと思います。以前、下学年の子どもたちが、話合い活動を立派に行っているのを見て感心しました。相手の話を聞き自分の思いを伝えることは、コミュニケーション能力の育成に留まらず、優しさや思いやりの心を育みますし、一人ひとりが、自分の考えを安心して口に出せる集団の雰囲気もつくります。最初は上手にできなくても、続けることで話合いの技術も向上することでしょう。 ◇　三松小を訪問する度に子どもたちや先生方の挨拶から元気をもらっています。挨拶はコミュニケーションの基本ですし、お互いの元気の源です。地域住民の一人として、子どもたちとの挨拶から生まれる交流を楽しみにしています。登下校時のあいさつが少し残念な子がいます。 ◇　出勤途中に、落ち葉掃きや水やりなどの活動をよく目にしていました。道路から見えないところでもいろいろな活動をしているのでしょう。どんな小さなことでも、子どもたちがボランティア活動の意義を理解し、自分で考えて行動できるようになってほしいと思います。先生方も関わり方の工夫をお願いしたいと思います。 ◇　以前、ある学校の薬物乱用防止教室で、「保護者にこそ聞いてほしい」と、警察の方が言われたことがあります。最近では、同じ講話を親子で聞く機会を各学校が設けています。 　三松小でも、子どもたちと保護者が、非行防止教室や学校保健委員会で同じ情報に接しており、とても良い取組だと思います。また、県教委のリーフレットを活用して、SNSに関する指導を継続して行っているとのこと。今の時代、子どもも親も避けて通れない課題です。 ◇　「はいっ」ということばが各クラスに掲示されていました。授業に限らずどこでも「はい」の返事ができるといいですね。

令和５年度　小林市立三松小学校　学校関係者評価書

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等(〇成果・●課題・☆改善策)	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
体育・食育	重点目標：基礎体力、食育推進及び望ましい健康生活習慣の定着 ■手段 １　基礎体力及び運動能力の向上 ２　保健指導の充実・病気の予防と治療率向上 ３　家庭と連携した基本的な生活習慣の定着及び食育の推進	〇　体育専科教員が配置され、４・５・６年生の体育は専科授業を行っている。また、１・２・３年生も、授業協力や情報提供を行い、体力向上を図ることできた。 〇　県内で７校が選ばれた「体力つくり優良校」に認定され、表彰されることとなった。 ●　体育専科教員の配置の影響で、体力テストの結果を受けて落ち込みが見られる種目についての改善を図る工夫についての評価が低かった。体力向上プランに基づき、全体で取り組む体制を整えたい。 ●　う歯治療を保護者へ啓発しているが、１月末現在の治療率が６２．４％で、昨年度の７５％を下回っている。今後も啓発を継続していく。 〇　食育の日を長期休業中に２回実施した。３月のお別れ遠足で３回目の「食育の日（弁当の日）」を実施する予定である。 〇　食事のマナー（正しい箸の持ち方等）についての保護者評価が昨年度上昇した結果を維持している。さらに向上を図るために、食育だよりや保健だよりなどを活用した啓発を続けていきたい。	３．２	３．５	◇　体力つくり優良校の認定、とても素晴らしいです。体育専科ということで学担の負担も軽減で来ているのではないか？学年と専科でプログラムなどをしっかり協議し、更に子どもたちの体力向上に向けて励んでいただきたいです。 ◇　体力テストは個人差も大きく表れます。不得意分野をそのままではなく、楽しく取り組めるプログラムや、伸ばすことができるようにサポートをお願いいたします。 ◇　体育専科の先生が配属されているので、細かい点の指導など一人一人に合わせてできているのではないでしょうか。また、全体的な児童の様子（状況）なども把握しやすい部分もあると思います。特に運動を苦手とする児童が楽しい、そして達成感を味わえるような指導をしてもらいたいですね。 ◇　体育の時間だけで体力向上を図ることには無理があると思います。スポーツ少年団などに入部してない子どもは、遊びや登下校で歩くということしかありません。毎日歩いている子とそうでない子では当然体力差が出てくるのではないでしょうか。 ◇　歯科への通院率が９２％とのこと、素晴らしいですね。う歯の放置は一生の健康にかかわってくることです。学校保健の保護者への指導として、今後も、早めの治療、完治ができるように更に啓発をお願いいたします。 ◇　これからは、「眠育」の時代です。次年度の重点に「眠育」の項目を設けてほしいと思います。睡眠不足で自律神経が乱れ、アクセル役の交感神経とブレーキ役の副交感神経のバランスがこわれ体調をくずし、体がだるい子、心が重い子が増えています。
特別支援教育	重点目標：特別支援教育の充実 ■手段 １　学校全体で取り組む支援体制「全ての教職員が取り組む特別支援教育」 ２　特別支援学級児童に係る交流学級と協同した支援 ３　就学指導の計画的実施	〇　校内研修の充実を図り、全職員が児童の個別最適な学びを意識した指導や配慮について学ぶ機会を設けた。 ●　職員の児童理解や対応力等の特別支援教育力の向上に、さらに努める必要がある。 ☆　校内研修の充実、オンライン講座等の有効活用による学びの機会を確保し、スキル向上を目指す。（教育研修センター提供のオンライン研修を、特別支援教育コーディネーターが毎回受けた。） 〇　特別支援教育支援員による個別の支援の充実を図るため、個別の教育支援計画・指導計画の作成や活用の充実と併せた配置計画を特別支援教育部の担当者を中心に行った。 〇　校内支援体制の整備を特別支援教育コーディネーターが相談窓口となり進めていった。また、関係機関（教育と福祉の連携）、小林小学校に在籍しているエリアコーディネーターや小林中学校に在籍しているエリアメンター、小林こすもす支援学校のチーフコーディネーターからの助言も有効活用した。 〇　小林こすもす支援学校と連携し、居住地校交流５名実施できた。担任同士で事前打ち合わせを行い、交流及び協同学習の充実に努めた。 〇　特別支援学級児童の実態を交流学級担任も把握し、協同・一貫した指導・配慮が行えるようにした。 ☆　情報交換の機会を増やし、さらに連携強化することで児童のよりよい成長と適応を高めていく。 〇　就学指導については、行動観察→結果分析→指導や配慮方法の提案（保護者面談）の流れを作り、計画的に行った。	３．３	３．８	◇　評価項目にある「教室内の整理整頓・教室前面の掲示・すっきりした黒板・落ち着いた学習環境整備」が実践されていると授業参観を通して感じました。こういうことが気になる「感覚が優れた」子どもたちもいます。そういう子どもたちの視点で学習環境を見直すことが大切だと、改めて思いました。 ◇　小林こすもす支援学校との連携で、居住地校交流を担任同士での事前打合せの上で実施したと聞きました。実際の交流を通してこそ得られるものも多く、両校の子どもたちだけでなく先生方にとっても貴重な機会になったと思います。交流を重ねることで、お互いをより自然に受け入れられるようになることでしょう。 ◇　個別の指導が充実していて、子どもたちが意欲的に学んでいる姿を見ることができました。「つつみ学級」は、地区名の「堤」とも関連しているのですが、全職員が関わりをもってほしいという願いを込めて、「つつみこむ」という意味を併せ持たせて名付けたという経緯があります。校内研修によって、個に応じた指導や児童理解がさらに進むことを期待します。 ◇　今後も、様々な機関、専門の方々との連携がより一層深まり、更に支援へつながることを期待しています。

次年度の方向性についての校長所見	１　『Have to』から『Want to』へ、働く・学ぶ意味を「対話」により明確にし、『わくわく』が溢れる三松小を目指します。 ２　学校教育目標の実現に向け、「対話」を軸に、「つながり」を大切にした教育活動を推進します。 ３　一人一人の夢の実現に向けて「対話」を軸に、「協同・自立」し、仲間とともに高め合う教育活動を推進します。 ４　家庭・地域との「つながり」を大切にした地域コミュニティーの核としての学校づくりを推進します。